

「神に聞く！」 ～自分の考えに頼っていませんか～

Ⅱサム2：1～6

あと2ヶ月で1年が終わろうとしています。私たちはどのようにすごしてきましたでしょうか。神は私たちに素晴らしい宝物を用意しています。それを私たちは受け取る準備をしているのでしょうか。それを受け取るためには受け取る方法を聞かないといけません。今日はそのことを中心にメッセージをしていきます。私たちの周りには信じられないことが起こります。その時、どのように対処しているのでしょうか。それをチャンスにすることができているのでしょうか。それともマイナスなことのように捉えてしまっているのでしょうか。私たちの周りにはたくさんルールがあります。そのルールはとはどのようなものでしょうか。たとえ自分1人が守っても周りが守り、全体的な共通認識でないと意味がないものになってしまうものが多いと思います。自分だけのルールというのは相手には通じません。そして私たちはルールというだけで真意を理解せずにそれを守ろうとしています。そのルールがどのような理由で作られたのかは理解していないと人は喜んでそれを行うことができません。また、私たちの中で余裕がない時というのはルールを知っていても守る事ができない場合があります。日常生活の中において信じられないようなことがたとえ起こったとしても、私たちは信仰を働かし神さまに目を向けていかなければいけません。（Ⅱサム2：1～6）今日もダビデがでできます。ダビデは油注がれたサウル王に対して手を下さないということを守り通しました。ダビデはいつも目の前に主をおいていたので守る事ができました。私たちも同じようにできるでしょうか。祈りの答えに対して従順しているのでしょうか。それとも不従順になっていないでしょうか。私たちは聞きはしますが行くことを拒否していないでしょうか。特に問題が目の前にある時ほど、自分の力によって解決しようと奔走していることがないでしょうか。Ⅰサムエル記を読んでいたら分かるかと思いますが、ダビデは自分よりも神に従う事を優先していました。どんなに苦しい事があったとしても神に聞き、行動していました。サウル王に対しても自らでいのちを狙える時も自分の信念を貫きました。それはサウル王を葬った人たちにお礼の言葉を伝えるほどでした。しかしそのようなダビデを王として迎えたのはコダだけでした。残りの11部族はサウル王の息子を王にしていました。それから2年後ダビデは全イスラエルの王となりました。それまでのダビデは平坦な道のりではまったくありませんでした。しかしダビデはいつも目の前に主を置き、従っていました。そしてダビデの素晴らしいところは当時はBC1000年頃で、イエスキリストは生まれていませんが、ダビデは信仰の目を持ってイエスキリストを見ていました。それはダビデはいつも神に聞きながら生活していたからでした。ダビデは「神に愛されたもの」という意味です。その姿勢が神に愛されていました。神は天地創造から人まですべてを造った神です。ですから私たちがいつ生まれ、いつ一生を終えるのかを知っています。ですから私たちは信仰告白した時から、自分の将来を知っている方から聞くことができるようになりました。これはとても素晴らしいことで、今までとは180度違う人生になります。私たちに語られていることはこれから起こることに対して乗り越えていくために予め聞いて聞いているのです。それは目の前に起きる現状に流されずに判断するためです。見た目に騙されずに判断することができるようになることです。私たちの敵である悪魔は私たちの将来については何も知りません。悪魔は元天使といわれ、人より力を持っていますが、将来については何も分からないのです。神さまはロゴス（御言葉）を通してレーマ（その時に感じる霊の言葉）によって教えてくれるからこそ、良い決断ができるのです。まだ起きえないことを知恵によって悟ることができます。しかし私たちは過去に経験したこと、学んだことなど知識によって判断しようとしてします。今日お伝えしたいことは、私たちの歩みにおいて知識を元に神さまの知恵によって奇跡を体験していくことです。だからこそ聖書を読む必要があります。それは今までどのようなことが起こったのかを知らなくてはならないからです。そして悪いことであれば、それを回避するには知恵が必要ですし、良いことであれば、今に適応するために知恵を求めていく必要があるのです。自分の考えに頼っているのであれば知恵ではなく、知識になります。（ピリピ4：6～7）私たちは知恵を働かせるために自分を整える必要があります。なぜなら神は私たちが正しい決断ができるようになることを通して栄光を受けれるようにしているからです。旧約時代は主と従という関係でした。新約時代になりイエスキリストは私たちが友とよんでくださるようになりました。そして「アバ父よ（幼い子どもが父をよぶ言葉）」と呼べる関係にしてくださいました。ですから何かあるときには神の前にでて聞いてほしいのです。すなわち知恵によって行動してほしいのです。知識によって生きるのか知恵によって生きていくのかは私たちが判断するように言われています。イエスキリストがそばにいるのであれば、その都度、聞かなければいけません。方法は1つではないからです。（イザ11:1～5）私たちは目先のことで行動をしてしまいがちです。見えない世界を信仰によって歩むのではなく、見えるものによって歩いてしまっています。何かするとき、自分ひとりになっていないのか確認しつつ歩いていきましょう。信仰告白することは私たちの力ではできません。これは聖霊の力です。ですからいつもいっしょにいるのに、いざという時にその声に聞くことができません。私たちが目に写ること、耳で聞いたことに従っていることが神さまに聞いていないこととなります。大事なことはいつも隣にいることを確認するということです。今日のメッセージをまとめていきます。①目で見ただけで判断していないでしょうか。私たちは現状ではなく、それをすかして神さまを見る必要があります。②知恵を求めているでしょうか。人の知恵ではなく、神の知恵を求めていきましょう。神さましか将来はわかりません。人や悪魔は経験、過去、歴史からしか説明ができません。知恵といえばソロモン王です。彼は王に任じられた時、神に知恵を求めました。（Ⅰ列王3：5～13）この聖書箇所を読んでみると、ソロモンは知恵を得る前に知識があったことが分かります。ですから知識も大切であることは分かります。知識は人を高ぶらせるので注意深く歩いていきましょう。その上で私たちは神さまからの知恵を求めて歩いていきましょう。知恵によって行動していると周りの人から恐れられるようになります。なぜなら神さまの威厳を感じるようになるからです。そしてそこに愛のある言葉がかけられれば、尊敬されていくのです。そのために③祈って聞いて行動するのです。都合のよいことだけを祈るのではありません。ダビデも進むにしても引くにしても必ず神さまから答えをもらって行動していました。神さまは必ず答えてくれるのです。私たちは祈った後、しっかりと聞かなくてははいけません。（ヤコブ5：13～18）祈ってから行動しましょう。私たちのいるところに主を認めていきましょう。私たち日本人は祈るより周りに合わせる行動が先に出てしまう民族です。良い事のようにみえますが、自分の信念というものが無い民族なのです。そして悪い結果となった場合、責任転嫁をします。祈って聞いている私たちには失敗はありません。何が起っても必ず益に変える事ができる神さまに聞き行動していきましょう。（要約者：平澤一浩）